

EUSI メールマガジン Vol. 035

「第5回 Euro-Asia Summer School を終えて」(EUSI サマースクール体験記)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI サマー・スクール参加者体験記】

「第5回 Euro-Asia Summer School を終えて」

須藤香織 (一橋大学法学部4年)

第5回 Euro-Asian Summer School を通し、2013年8月にベルギーのルーヴアン大学と韓国のソウル大学で約2週間勉強させて頂いた。ソウルでは学内で講義とカンファレンスを受け、郊外学習として韓国銀行とサムスン電子を訪ねた。ルーヴアンでは講義に加えてグループワークを行い、各グループが様々なテーマで発表した。また、郊外学習では欧州委員会を訪問し、政策策定に携わる実務家の話を聞くことができた。加えて、国際弁護士事務所であるリンクレイターズを訪れ、ビジネス法務の観点からEUの法制度と文化について学んだ。

私がサマースクールへの参加を決めたのは、EUが持つ超国家的な法律システムがその統合深化にどのような役割を果たしているかに関心を抱いたからだ。サマースクールを終えた今、これに関して自分が学んだことを報告したい。

1. 更なる経済的統合における法の役割

EUは2009年12月1日のリスボン条約発効に伴い、外国直接投資について排他的権限を有するに至った。そしてこれに伴い、EUは投資協定の締結権限を持つようになった。これは、EUが新たな更なる経済統合の段階に入ったことを意味する。

サマースクール中のグループワークでは、投資協定をテーマに発表を行い、EU・日本・韓国の近年の海外直接投資の分析や投資協定が、投資保護・促進をどう確保しているかを学ぶことができた。発表のために調査を進める中で、EUが締結した二国間投資条約(BIT)と、加盟国がこれまでに締結した既存のBIT、そして今後の加盟国が締結するBITの間で調整が必要であり、法律的にも複雑かつ高度な枠組みであることが分かった。同時に、EUは加盟国ではなく自らが投資政策の先頭に立つ法的根拠を得て、経済統合の新たな発展段階を迎えている。そう考えると、欧州統合のダイナミクスに圧倒される思いがした。

2. 金融危機における法の役割

ブリュッセルで欧州委員会を訪問した際、欧州金融危機への対応でEU法が果たした役割について、ペトル・ブリズコブスキ博士にお話を伺うことができた。ペトル氏によれば、金融危機という緊急事態に際し、EUはEU法という超国家的で強固な法システムに基づき行動しなければいけなかった。その結果、EUは柔軟性に欠けた対応を取らざるを得ず素早く有効な対処ができなかったという。

それに対し、アジア通貨危機において ASEAN がとった金融危機政策は、周辺国である韓国・中国・日本との協調を実現するなど柔軟なものであった。そしてその背景には、ASEAN という機関が強い法的拘束を受けないという事実があるようだ。

このような情報は、政策策定に関わる実務家からしか得られない貴重なものであった。法律学を学ぶ者として、超国家的法律システムはこのような側面も持つことを常に心にとめて、今後も社会と法のあり方について考えていきたい。

今回のサマースクールを通じて、経済学・政治学の立場から法律が EU という組織にとってどのような意味を持つのかを、より実務の感覚に近い形で考えることができた。こうした広い視点は、今後の勉強にも活かしていきたい。

このような機会を与えて下さった EUSI の皆様、そして何より2週間生活を共にして熱い議論を交わしてくれた世界中の友人・先生方に改めてお礼を申し上げます。

【EUSI イベントご案内】

1. 駐日欧州連合代表部主催「永山事件～日本の死刑制度を考える」移動展示
今般、駐日欧州代表部が10月10日の世界・欧州死刑廃止デーにちなんだ展示「永山事件・日本の死刑制度を考える」を行っています。

一橋大学・EUSI ではこれに協力し、下記の通り、一橋大学附属図書館にて移動展示を行います。事件に関する資料を展示する貴重な機会ですので、皆様奮ってご参加ください。

日時: 2013年10月22日(火)-10月31日(木) 10:00-17:00 (26(土)・27(日)除く)

場所: 一橋大学附属図書館 1階会議室

展示: 永山事件のパネル(約20枚)、事件に関する資料、著書・手稿・図画等

http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20131022-eu-exhibition.html

2. ヨーロッパ・アジア太平洋の社会科学ネットワーク国際シンポジウム

一橋大学主催・EUSI 共催「アジア太平洋地域とヨーロッパにおける経済再生」

日時: 2013年10月29日(火) 10:30-17:30

場所: 一橋大学千代田キャンパス 一橋講堂

来賓挨拶: ハンス・D・シュヴァイスグート (駐日欧州連合代表部大使)

基調講演: 三木谷浩史 (楽天株式会社代表取締役会長兼社長)

「日本の国際競争力を高めるには」

プレゼンテーション:

深尾京司 (一橋大学経済研究所長)

ジャン＝マリ・ブイス (パリ政治学院)

デビット・メイズ (オークランド大学)

モートン・オーゴ (コペンハーゲンビジネススクール)

パネル・ディスカッション: 参加大学代表者

モデレーター: 長岡貞夫 (一橋大学イノベーション研究センター教授)

言語: 日本語・英語 (同時通訳)

<http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2013/1007.html>

http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20131009-socialsciencenetwork-symposium.html

3. 経済広報センター(経団連)講演会

日時: 2013年10月30日(水) 15:30-17:30

場所: 経団連会館 4階 402号室

テーマ: 「欧州経済の真の再生に向けたEUの対応」

言語: 日本語・英語 (同時通訳)

報告者:

ペーター バックス

(欧州委員会 経済金融総局 国際経済・金融・グローバルガバナンス 局長)

「欧州債務危機とユーロの未来」

モレノ・ベルトルディ

(欧州委員会 経済金融総局 G20・IMF・G グループ課長)

「リセッションから回復期へ EUとユーロ圏の持続可能・安定的な成長の達成」

討論者:

林秀毅 (一橋大学国際・公共政策大学院客員教授、EUSI 主任研究員)

4. 国際交流セミナー「Polish Economy within the EU」

(一橋大学経済研究所・EUSI 経済部門共催)

日時: 2013年11月6日(水) 16:00-18:00

場所: 一橋大学経済研究所 3F 会議室 1

言語: 英語 (通訳なし)

報告者: Prof. Wojciech Bienkowski (Lazarski University)

論題: 「Polish Economy within the EU」

http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/news/seminar_list.html#s201311062

5. EUSI 政治プロジェクト研究会

「EUは盤石か? -欧州統合の領域及び加盟の深化・拡大の再考」

"Is The EU Stable?: Deepening, Widening of Scope and Membership Revisited"

日時: 2013年11月12日(火) 16:30-18:30

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館 B4 2B42号室

言語: 英語 (通訳なし)

講演: ジャック・ペルクマンス教授 (Prof. Jacques Pelkmans)

(College of Europe 客員教授・欧州政策研究センター(CEPS)上級研究フェロー)

また日欧産業協力センターより、ディエゴ・カンガ＝ファノ欧州委員会企業・産業総局官房長による講演会のご案内が届いています。

「更なる発展を求めて: EUの再産業化戦略」

日時: 2013年10月31日(木) 14:45-16:15

場所: 慶應義塾大学 三田キャンパス 西校舎 528教室

共催: 慶應義塾大学・日欧産業協力センター

参加: 無料 (要事前登録)

言語: 英語

http://www.eu-japan.eu/sites/eu-japan.eu/files/Invitation_Keio%20University%20Lecture_JP.pdf

尚、同じ講演者により「EU ビジネス外交の第一歩: 成長に向けた使命」と題し、
10月30日(水)15:00-16:00、青山学院大学において講演会が開催されます。

詳細および申し込みは下記をご参照ください。

http://www.eu-japan.eu/sites/eu-japan.eu/files/Invitation_Aoyamagakuin_Lecture_JP.pdf

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子『EU 権限の法構造』(信山社、2013年10月)約440頁

<http://www.shinzansha.co.jp/131004EUkengenhoukouzou-contents.html>

本書は、一橋大学大学院法学研究科博士後期課程のときに紀要『一橋論叢』に執筆した2つの論文及び専修大学の教員のときに執筆した10の論文と合わせて12の論文から構成される。約15年間のEU法研究のうち、特にEUの権限に関するものの成果をまとめたものである。2012年4月に一橋大学に教員としてもどったことを機に、リスボン条約が発効(2009年12月1日)したことを踏まえて、これら12の論文を全面的に見直し、大幅に加筆修正した。

本書は、3つの部から構成される。

第I部権限付与の原則とEUと構成国間の権限配分、第II部権限の生成と発展、第III部権限をめぐる法的諸相である。

12章の論文を通じてEUの権限がどういったものであるのか、どのようにEUの権限が発展してきたのか、EUの権限をめぐる諸事項にどういったものがあるのかを明らかにするものである。

専門書であるが、拙著の体系的教科書『EU法(法学叢書)』(新世社、2012年)と合わせて読んでEU法及びEUへの理解を深めてほしいと考える。

羽場久美子編著『EU(欧州連合)を知るための63章』(明石書店、2013年9月30日刊行)

<http://www.akashi.co.jp/book/b128354.html>

山内進 (EUSI 前理事長、一橋大学長)

「3章 中近世ヨーロッパの東方拡大」

田中俊郎 (EUSI 前所長、慶應義塾大学名誉教授)

「5章 欧州統合の歩み「未知の目的地」に向かって」

中西優美子 (EUSI 執行委員、一橋大学大学院法学研究科教授)

「12章 EC/EUにおける法の役割」及び「13章 ローマ条約」

林秀毅 (EUSI 事務局長、一橋大学国際・公共政策大学院客員教授)

「33章 スペインとEU」及び「34章 ギリシャとEU」

【EUに関するニュース】

2013年10月1日 Eurostat、8月失業率はユーロ圏17カ国で12.0%・EU28カ国で10.9%と共に前月比同値

2013年10月2日 欧州委員会、EMUの社会的側面に関する政策文書を採択。雇用調整・流動性・社会対話等

2013年10月2日 バロゾ委員長、レッタ伊政権成立を歓迎する声明。ベルルスコーニ元首相の動きを批判

2013年10月2日 欧州委員会、仏ルノーに対しディーゼルHV車開発のため2050万ユーロの低利融資承認
発表

2013年10月2日 スタイコウラス・ギリシャ副財務相、本年度同国財政赤字がGDP比3%下回る見通しと表明

- 2013年10月3日 欧州委員会・ECB・IMF トロイカ調査団、ポルトガル財政改革進捗に好意評価。支援へ前進
- 2013年10月4日 欧州委員会、飛行機の温室効果ガス排出削減に関する国際民間航空機関(ICAO)決定を歓迎
- 2013年10月4日 EU・米、米予算執行停止で7日予定の環大西洋貿易投資連携協定(TTIP)第2回交渉中止決定
- 2013年10月5日 駐日 EU 代表部他、第4回 EU・日本科学政策フォーラム「変革する科学の地図」を京都で開催
- 2013年10月7日 アルムニア欧州委員(競争政策)、外国為替市場の相場違法操作の疑いで情報収集開始と発表
- 2013年10月7日 伊銀行大手モンテ・パスキ、EU 支援要件満たす新再建計画発表。追加人員削減と増資が柱
- 2013年10月8日 第19回日・EU 人権対話開催。人権に関する両者の取組、国連などでの協力などで意見交換
- 2013年10月8日 OECD・欧州委員会、国際成人力調査で、欧州成人の読解・数学・情報リテラシー向上必要
- 2013年10月8日 欧州議会、タバコ包装表面65%に警告表記、フレーバー・小型パッケージ禁止の法案採択
- 2013年10月8日 ゲーガン＝クイン科学担当欧州委員、ヒッグス博士らノーベル物理学賞受賞を祝福
- 2013年10月8日 マルムストロム内務担当欧州委員、イランペドゥーザ沖アフリカ難民沈没事件で捜査協力
- 2013年10月9日 バローゾ委員長、イランペドゥーザ島訪問。難民問題解決に向けて意欲
- 2013年10月9日 欧州議会、EU・中国間及びEU・台湾間の投資協定の交渉開始を求める決議を採択
- 2013年10月9日 IMF、国際金融安定性報告(GFSR)発表。伊などEU3カ国で2500億ユーロの貸倒れリスク指摘
- 2013年10月9日 レッタ伊内閣、EUの財政赤字目標に向け、11億ユーロの歳出削減及び不動産売却計画承認
- 2013年10月9-11日 日・EU 戦略的パートナーシップ協定(SPA)第3回交渉、東京で開催、各分野協力を議論
- 2013年10月10日 世界・欧州死刑廃止デー。アシュトン EU 上級代表、死刑廃止の取組に向けた共同声明発表
- 2013年10月10日 駐日 EU 代表部、永山事件と死刑に関するシンポジウム・資料展開催
- 2013年10月10日 ECB と中国人民銀行(中央銀行)、通貨スワップ協定締結。貿易拡大や人民元国際化促進へ
- 2013年10月10日 EU、ロシア政府による輸入自動車へのリサイクル料課税に関してWTO パネル設置を要求
- 2013年10月10日 EU、水銀に関する水俣条約に署名。水銀汚染規制や国際的水銀管理など
- 2013年10月10日 欧州議会、パキスタンの女性教育活動家のマララさんに2013年度サハロフ賞授賞を決定
- 2013年10月11日 外務省「日-EU 協力シンポ EU 東方パートナーシップと東アジア安保情勢」リトアニアで開催
- 2013年10月11日 ファン＝ロンパイ議長、化学兵器禁止機関(OPCW)のノーベル平和賞受賞に対し祝福の声明
- 2013年10月12日 中国外交部、EU・台湾間の投資協定交渉開始を求める欧州議会決議に対し断固反対を表明
- 2013年10月14日 欧州委員会、「女性の意思決定参加に関する報告書」発表。上場企業の女性取締役割合増
- 2013年10月14日 欧州議会諸委員会、企業の取締役レベルでの男女間不均衡是正の欧州委員会提案を採択
- 2013年10月14日 Eurostat、8月鉱工業生産は、ユーロ圏17カ国で前月比1.0%増・EU28カ国で同0.5%増
- 2013年10月15日 EU 財務相理事会、ECB にユーロ圏の銀行監督権限を移譲する単一監督制度(SSM)創設を承認

【編集後記】

秋も徐々に深まり、今回はさまざまなイベントのご紹介が盛り沢山となりました。特にブラッセルのEU委員会からは、日本でも良く知られたエコノミストや、政策の責任者である高官が来られます。また学会でも、日本EU学会における

講演のため来日する研究者に、EUSI でもレクチャーを行って頂くことになって
います。さらに中東欧からみた EU 経済の研究会なども企画しており、ここしば
らくは EU を多面的な視点から改めて捉えなおす良い機会となるでしょう。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

現在日・EU 間では EPA 交渉と SPA(戦略的パートナーシップ協定)交渉が行われて
います。特に EPA 交渉に関しては関心も高く、つい先日 10 月 21 日から 25 日まで
ブリュッセルで第 3 回会合が行われたばかりです。ただ日本国内ではどうしても
TPP などの方に関心が集まりがちで、EU との EPA 交渉、特に現地ヨーロッパ政治
の最前線から観た生の声というのはどうしても限られてしまいます。

そのような中、今年欧州議会でインターンの経験を持ち、現在もブリュッセル
にて EU の政策形成や市場調査を研究している小串聡彦さんという方がいます。
元々は、慶應にて西洋外交史やヨーロッパ国際政治を学ぶゼミに所属しつつ、
ジャーナリズムや環境問題や漁業問題などに強い関心を持ち、現在はスウェー
デンのウプサラ大学の修士課程で学ぶ現役の学生でもあります。

小串さんは、日・EU EPA 交渉をブリュッセルから眺めつつ、EPA 交渉で争点と
なっている非関税障壁撤廃問題を、公共調達分野、特に鉄道セクターを象徴的
な事例として取り上げ、皮肉なまでに対照的な日・EU 双方での問題のあり方を
浮き彫りにしています。

小串さんによれば、EU 側が、日本は鉄道セクターにおける調達市場は閉鎖的で
あると批判する一方で、実際は EU 側も喧伝されているほど公共調達市場が開か
れている訳ではないとしています。そしてその原因を、欧州と日本の鉄道業界
の事業的性格・市場性・業界団体の影響力・情報発信力などに求めて比較分析
し、その上で今後起こり得るシナリオを 3 つ提示しています。

非関税障壁の問題は、これまでも、航空機(米ボーイング社の独占状態にある
日本市場に対するエアバス社など欧州企業の市場参入)や、農産物・食品や、
医薬品・医療機器など、数多くの複雑な問題を抱えています。これら難しい
舵取りの中、日本と EU の間で交渉が重ねられてゆくか、注目したいと思います。

小串聡彦「日本と EU の EPA 交渉の焦点は鉄道セクター」(4 回連載)

<http://toshihiko-ogushi.com/2013/10/16/>

<http://toshihiko-ogushi.com/2013/10/16/2/>

<http://toshihiko-ogushi.com/2013/10/20/1441/>

<http://toshihiko-ogushi.com/2013/10/23/1458/>

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
